



展覧会スケジュール

2025.03 → 2026.05

展覧会スケジュール

※詳細はWEBサイトでご確認ください。

2025

3月14日(金)～6月22日(日)

3

移転開館5周年記念 花と暮らす展

日本では春夏秋冬の四季の中で、季節ごとの花や色彩を生活に取り入れ、日々の暮らしを楽しんできました。本展では国立工芸館の所蔵品を中心に、春から夏にかけて咲いている花をテーマにした工芸・デザイン作品をご紹介します。身の回りにある花々だからこそ、それぞれの技法や個性が際立ってきます。身近な自然と工芸・デザインの関係にご注目ください。



寺井直次《漆器罌粟模様箱》1950年
国立工芸館蔵
エス・アンド・ティ フォト©2022

4

5

7月11日(金)～8月24日(日)

移転開館5周年記念 重要無形文化財指定50周年記念 喜如嘉の芭蕉布展

「沖縄の風土が生んだ最も沖縄らしい織物」といわれる芭蕉布ですが、現在、沖縄本島の大宜味村喜如嘉でその製法が伝承されるのみになっています。本展は、重要無形文化財の指定から50周年を記念して、芭蕉布の技術復興に尽力した人間国宝、故・平良敏子氏とその工房の作品を中心に、芭蕉布の歴史的な名品もあわせ展示し、その魅力を紹介します。



平良敏子《芭蕉布 田舟花合わせ模様》
1964年
国立工芸館蔵

企画展

6

7

8

9月9日(火)～11月24日(月・休)

移転開館5周年記念 ルーシー・リー展 ー東西を越えた優美のうつわー(仮称)

ロンドンで活躍した20世紀を代表する陶芸家ルーシー・リー(1902-1995)。その作品は優美な形、色彩で今も多くの人々を魅了し続けています。本展では、当館に寄託されている井内コレクションを中心に彼女が出会った人、もの、場所、時代背景を交えながら魅力の源泉を紐解きます。洋の東西を越えた造形世界をぜひご堪能ください。



ルーシー・リー《ブロンズ釉花器》
1980年頃
井内コレクション(国立工芸館寄託)

企画展

9

10

11

12月9日(火)～3月1日(日)

移転開館5周年記念 令和6年能登半島地震復興祈念 工芸と天気展 ー石川県ゆかりの作家を中心にー(仮称)

工芸と天気の関わりをテーマに、石川県ゆかりの作家を中心とした工芸作品をご紹介します。北陸地方の特徴でもある湿潤気候は工芸の技法に恵みをもたらしてきました。また、工芸の作家たちがとらえた移ろいゆく空もよう、春の息吹を感じさせる作品を通して、北陸地方の天気のもとで育まれた表現をお楽しみください。



番浦省吾《双象》1972年
国立工芸館蔵

企画展

12

2026

1

2

3月20日(金・祝)～5月31日(日)

ルネ・ラリック ー華麗なるジュエリーとガラスの軌跡ー(仮称)

19世紀末から20世紀前半のフランスでデザイナーとして活躍したルネ・ラリック(1860-1945)の名品を、当館に寄託されている井内コレクションを中心にご紹介します。本展では、ラリックの作品とともに、同時代の作品やラリックが着想を得た作品もあわせてご紹介し、ジュエリーからガラスへと至るラリックの軌跡をたどります。



ルネ・ラリック
《ブローチ 翼のある風の精》1898年頃
国立工芸館蔵
エス・アンド・ティ フォト ©2019

企画展

3

4

5